



Tokyo Rinkai West Rotary Club

東京臨海西 ロータリークラブ

第2580地区(東分区)



クラブ会長ターゲット

「ロータリアンとしての自覚」
"Awareness as a Rotarian"

2022-2023年度 東京臨海西ロータリークラブ会長

大星 太郎



国際ロータリーテーマ

「イマジン ロータリー」
"Imagine Rotary"

2022-2023年度 国際ロータリー会長

ジェニファー E. ジョーンズ

2023年3月7日[第113回]

創立：2018年11月22日

会長：大星 太郎

副会長：三橋 晶

幹事：継岩 憲二

会報担当：菅秀平/本島厚

3月7日の卓話	2月17日の出席率	3月17日の卓話
東京臨海東ロータリークラブ 創立27周年記念合同例会 「墨田区の環境・社会・経済などが 学べるスタディツアー」 一般社団法人墨田区観光協会 理事長 森山育子氏	会員在籍者数 41名 会員出席者数 31名 会員欠席者数 10名 本日の出席率 75.60%	「国際奉仕フォーラム」 国際奉仕委員会 北林貴臣 委員長

〈2022-2023年度 例会 第112回例会報〉 2023年2月17日(金)東武ホテルレバント東京「吉野の間」

司会：田名網一嘉会員

- 点鐘：東京臨海西RC 大星太郎 会長
- ソングリーダー：熊倉貴志会員
- ロータリーソング「奉仕の理想」「四つのテスト」斉唱
- 「ロータリーの目的」東京臨海西RCバージョン

- 来賓紹介：大星太郎会長
- 東京臨海西ロータリークラブ 特別代表 齊藤実様
- 東京臨海ロータリークラブ
- 東京臨海西ロータリークラブ 発起人代表 鈴木孝行様
- 東京臨海ロータリークラブ

- 卓話者紹介：大星太郎会長
- NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会
理事長 関口雄三様
事務局・技術担当顧問 田中 克哲様

- ビジター紹介：米井新吾会員
本日はいらっしゃいませんでした

- 会長報告・スピーチ：大星太郎会長
- ハイブリット例会について

- 幹事報告：継岩憲二幹事

- 2021-2022 年度地区大会の年次報告書をメールBOXに配布しました

- 委員会報告
- 社会奉仕委員会 伊藤委員長より
ロータリーの友電子版のURL・パスワードをメールしました(2/13)
ローターアクト例会の報告
次年度の活動報告計画について
ブックデアースについて
- 国際奉仕委員会 北林委員長より
バギオ訪問交流の旅の報告
- ゴルフ幹事 雪丸会員より
のほほんコンペ3/19(月)について



- 出席状況報告：油井健一会員
⇒詳細1頁バナー下の出席状況報告欄にて

■ニコニコ BOX 報告：松原会員

- (ご意向) 第 44 回バギオ訪問交流の旅参加ありがとうございました。楽しく有意義な訪問になりました。関口さん卓話楽しみにしています：齊藤実様（東京臨海 RC・当クラブ特別代表）
- (ご意向) 先日のバギオ訪問へ参加して下さった会員の皆様、大変お疲れさまでした！また関口雄三様、本日の卓話よろしくお願ひします！：当クラブ三役
- (ご意向) バギオ訪問の旅お疲れ様でした。関口様本日の卓話よろしくお願ひ致します：栗山会員
- (ご意向) 今日は大阪から ZOOM で参加させて頂きます：西野会員
- (ご意向) 関口様、田中様、本日の卓話よろしくお願ひいたします。大星会長、ロゴ制作の依頼ありがとうございます：伊藤会員
- (ご意向) 関口様、本日の卓話楽しみにしております。宜しくお願ひ致します：間野会員
- (ご意向) 三橋副会長、防犯カメラのお仕事ありがとうございました。また、別件で2件のご紹介ありがとうございます：清水会員
- (ご意向) 新入会員歓迎会ありがとうございました。久しぶりに楽しい時間を過ごせました：中村会員

飯塚憲貴会員、油井会員、坂東会員、高橋会員
二瓶会員、菅会員、岸会員、米井会員、本島会員
島崎会員、武井会員、佐藤会員、岡田会員
平井会員、松原会員、石田会員、北林会員
飯塚正裕会員、雪丸会員

【29 件 103,000 円 今年度累計 1,630,000 円】

■本日の卓話

「東京湾再生は世界を救う」

NPO 法人ふるさと東京を考える実行委員会
理事長 関口雄三様

私は関口設計事務所を 28 歳の時に立ち上げます。今 75 歳ですので、あつという間ですね。その間に仕事をしながら東京湾は面白い。コンクリートは車の排気ガスより二酸化炭素を出しています。「プラスとマイナス、ゼロにしないとやばい」と、設計事務所でありながら、それを感じました。日本は戦後、ふるさとを喪失しました。東京湾は汚れていきました。その中で気がついた点が「どうしてもこの故郷を残したい」 そういう活動していかないと「次の世代に伝わらないな」と自分で行動しない限りは無理だと言うことで美術館、これ、建築設計すると、日本の文化とか自然感とかそういったものを表現することが出来ないことに気が付

きました。アーティストを支援することと、コレクションが彫刻の美術館です。

今も設計をすると、1つ1つもモニュメントを入れています。今 20 点ぐらい江戸川区にあります。

それを今度は点で結んでいくと、江戸川区の区長へ提案してますが、親水公園の中に彫刻がありません。皆さん見たと思います。西葛西から葛西まで歩く道中をマップを作るだけで美術館はいらない。そういうことをレポートを出しまして、今その活動が、江戸川区とをくっつけて街づくりに提案をさせていただいております。今デジタル美術館というのができたはずで、どう歩いたら楽しいかっていうのが出るはずで、あとふるさと東京を考える行動しないと無理だなということでやっております。

これは小さい頃、江戸川や荒川で釣りをしたり、泳いだり。水門のそばは渦が入ってて、足が取られて死ぬ子供もいましたね。それと下に何かあるか分かんないで飛び込んで死んでしまった同級生もいました。

ですから、海には優しさもあるけど怖いってのがあります。それ予知する能力を自分は小さい頃学んだんだと思います。これが遠浅の時は左、満潮の時ですね。引潮になるとあなるわけです。その引いたとこで、野球をやったり、朝から晩まで遊んでいました。

これが生活を支えた海ですよ。こういう釣り船がいっぱいきてたんですよ。

これは環境破壊の問題で、江戸川区が汚染されちゃった。それで海苔が取れなくなりました。一瞬のうちに。国会議事堂まで乗り込んでった時代もありました。

こういうことがあったので「ああ、故郷って大事だな」って。1 番左が海苔の畑ですね。1972 年のようにだんだん埋め立てがされて、今現在今丸くなってるところがあの西なぎさです。

こういう風景が消えてったわけです。1977 年私は 30 歳でパーミヤンへ旅に出ます。インドから入って、パキスタン、アフガニスタンのカブールから、山脈を下に見ながら上がってるんです。その頃は自分の命は自分で守ないと盗賊がいっぱいいます。乗り合いバスで行くんですけどね、ロレックスの時計なんてやってますとストーンと手首が落とされちゃうんですよ。この時感じた道すがらで、「ああ、小さい頃は僕はこの子たちよりマシだったなあ」って。寒いもんですから、バケツ一杯「おじさーんバケツあるよー！」「お湯あるよー！」って売りに行くんですよ。その頃の自分と一緒にしまして、日本にはちょうど娘が 2 歳でしたから、塾通いが多かった。もうその頃は「まずいぞ。これ豊かさを勘違いしたぞ」と。勉強だけが子供の人生になっている。大学出ればいってもんじゃないよな。漁師は漁師だったし、大工は大工だったんですよ。

ですから、全部が全部一方通行の人生っておかしいんじゃないかなと思いましたね。それで、この東京湾再生を立ち上げました。その当時は、政治運動から始まりました。地元の政治家を都議会に出して、東京湾憲章を作ってもらいました。500人態勢の政治運動をしました。



ここには書いてありませんが、地域設計懇話会というのがあります。設計事務所の社長である前に、建築家である前に、一住民として、尽くそうよ。一個人でやることと行でやることと両方あるんですね、ここに来られた方達は今それを気がついてロータリアンになられていると思います。

そのことを設計事務所40社に出して、それで21社が集まりまして、地域設計懇話会が出来ました。今の設計事務所協会の思想的なバックボーンを作ったことですね。

昭和初期の頃はこれだけ海水浴場があったんですが、1980年の頃にはほとんどなくなって、今現在は葛西臨海公園の西なぎさだけです。あとは稲毛の方です。

どうしたらいいんだということを考えに「カキは水をきれいにするよ」と、東京湾は漁獲高が一番あったんです。

先ほども言いました東京憲章。10万人の署名を行いました。それを見ていた国土交通省の局長が私の先輩を通じて、東京湾に1000団体のNPOあるんですね。56団体が行動しています。

それを集めて、ネットワークフォーラムをやってくれということで、発起人代表でやらせていただきました。所帯が大きいですから、国とか。動かないんですよ。

だから、自分の故郷にスポットを当てて成果を出していかないと、世の中動かないなっていうことに気づかしていただいて、そこにある葛西の水門のそばに実験場を作りました。カキを手前に入れて、向こうとこっちで対比しまして、そしたらこんなに綺麗になるんですね。

この実験対象区と向こうがカキを入れた区と分けるとこのぐらいの差がでます。これを小学校や中学校へ行って見せたりして啓蒙活動しました。1番左側の東京湾海水浴場復活プロジェクトの発表を

しまして、アカエイ防止ネットの沖合に竹を入れて、3000本入ってます。

そうすると、牡蠣が300個竹につきます。1個のカキが400Lの水を浄化しますから、海水浴場が綺麗になる。測ってみたら、他の海水浴場をやってる場所と比べて何の遜色もないということで、東京都も「心配で責任取れないから」と「私が責任取るからやるよ」ということで、2日間で1日で6000人やりましたね。

これが今現在の海水浴です。今は、6万か7万人ぐらいきます。

夏のバージョンですね。皆さん、ビーチクリーンに来ていただきましたね。

泳ぎ方教室とか、スイカ割りや、投網体験とか、子供達に体験をしてもらうことによって、ふるさと意識を持ってもらう。体験しないとなかなかふるさと意識を持ってないものですよね。

冬は海苔すきですね。皆さん来ていただければと思います。200名限定なんですけど、先週は390名来られました。

本田技研など、いろんな企業も参加するようになりました。葛西海浜公園西なぎさの海で廃材とかマイクロプラスチック拾ったもので絵画を作ったりして、うちの美術館で発表会をやっています。これが言いました里山里山連携プロジェクトと言いまして、竹を山から取ってきて、そして竹を入れる、それを取ったやつを今度はどんと焼きをやって、牡蠣を粉碎して海に撒くと、100年後はキレイな海になるだろうと。あとは水質改善のためにハマグリをまいたり、稚貝をまいたり、カキを撒いたりしてます。

残念ながらラムサール条約ということで野鳥だけが守られるようになったもんですから、野鳥がこんどは貝を食べちゃうんです。ですから、本来的には共生社会ということで回さないで里海っていうのは、里山もそうですけど、人が入らないと駄目になっちゃうんですね。

これはワカメやハマグリがこういう状態で今、放流したり、ワカメを取ったり海苔を取ったりする。去年から漁師宣言をしまして、誰か漁師やりたい人…いませんか。「土日は漁師やってもいいよ」とって人がいたら是非とも入っていただきたいなということです。

子供達に伝えたいこと、それは自然と向き合うこと、自然を知ること、人との関係、自分を知る。ですから、自然を粗末にすると、自然から学ぶことをしなくなって、いきなり今は子育てだとか。学校、大学まで支援しよう。ということで、一方通行の支援だけになってますが、本来的ではないような気がします。それは職業としての捉え方です。本当は人としてどうしたらいいかということが根幹にないとおかしいですね。

今問題になっているのは、富栄養化とマイクロプラスチック。海洋ゴミ、ブルーカーボンの問題、

それから、赤潮、青潮、貧酸素水塊、これが魚だとか生き物の命を奪っていることはたくさんあります。これを共生社会に戻さないと地球はダメになるでしょうね。

サステナブルスモールシティって書いてありますが、江戸時代は歩いて帰った。歩いて帰ってこれる距離を1つの県、ですから歩いて行ける所に宿場があった。そういう時代にもう1度戻せるんじゃないかなと思っています。1極集中であったために、いろんな歪みができています。例えばこの江戸川区を15の地域に分けるとします。そうすると、そこに宿場があると満員電車の東西線に乗らないですむかもしれません。そういうふうにしなないとですね。地域のコミュニティを守るとか、なかなかできなくなる。

また、地域の社会を守るということも無関心になってしまいます。私が事務所を構えたのが故郷でしたから、それがよく分かります。親がほとんど地元にはいないわけですから、それを愛せと言ってもなかなか難しいものがあります。

要はプラスとマイナスをゼロにしてから、自分の生き方もそうしていかないとねということです。

私は環境資本主義というのを提唱してます。

資本は自然環境なんだよ。自然があれば生きていける。今でもそうですよね。

何が大事かって言うと、やっぱり自分の故郷は自分で守るよということがないとまず守れないし、日本を守ろうというようなことも中々生まれてこないんじゃないかと思っています。

今後の活動の経過ですね。幅広い市民参加による新しいムーブメントの創出。活動推進者の育成と教育機関との連携。これから目指していくのは、研究、教育機関の創設。

環境再生のための東京湾再生センターを作ってほしいということで、都議会のほうに陳情してます。これも都議会で採択されまして、「これからどうするの」ということになってるわけです。誰かが言わないと気づいてもらえないからね。

だから、皆さん、ロータリアンも本当に皆さん考えて、江戸川区をどうする、東京をどうするっていうことをみんなで考えていただきたいなと思っています。それは将来ですね。東京湾を再生させるには新しい技術が必要なんです。今では科学工業地帯だった。これからはそうじゃない。再生させる。21世紀は再生の世紀だと思っています。20世紀で壊した、汚したものを再生する企業が生まれてくるはずですよ。

新しい産業がこれから生まれると思います。そうすると、一次産業がまた復興できて、水辺を生かした新たな都市環境づくり、高エネルギー社会から低エネルギー社会への移行、新しいライフスタイルの創造が生まれてきます。日本国内外の成果の活用が生まれてきます。また中国もそれを真似してくれるといいと思います。

基本は地球は1つだということですね。そのことを謳いたいと思います。これからもよろしくご協力のほうをお願いします。 どうもご清聴ありがとうございました。

■点鐘：東京臨海西RC 大星太郎 会長

令和5年2月16日
東京臨海西ロータリークラブ会員の皆様
東京臨海西ロータリークラブ
会長 大星太郎
幹事 藤谷憲二

例会のハイブリット化について

先日の理事役員会(持ち回り決議)で、「例会のハイブリット化(リアルとZoomの併用)」が決議されましたので、ご報告いたします。
例会の出席について、下記のとおり変更になりますので、ご確認ください。

記

■変更点

これまで当クラブの例会は、緊急事態宣言などの場合を除き、リアルでの開催を原則としてきましたが、今後は、運用を変更し、例会に出席できない特別な事情がある場合に限り、Zoomでの例会参加を認め、Zoom参加者を出席扱いとすることになりました。

■Zoomでの参加を希望する場合の手順

1. 事前申請
三役に対し、前日までに「例会に出席できない特別な事情」を申請してください。
2. 三役の承認
特別な事情と認められた場合は、Zoomでの参加を認め、URLをお伝えします。
例) 出張、病気など
3. Zoomでの例会参加
カメラあり、音声が開ける状態でZoomでご参加ください。

■変更するに至った事情

1. 国際ロータリーや地区の方針としても、長引くコロナ禍や季節性感染症の流行に備え、ハイブリット例会を推奨していること。
参考までに、臨海RCは、衛星クラブがあることもあり、当時ハイブリット方式で例会開催しています。但し、臨海RCの会員は、Zoomでの参加は出席扱いにはならない点で、今回変更された当クラブの運用とは異なります。
2. 出張や、病気等で例会に参加したくても参加できない会員にも少しでもロータリーの例会に参加する機会を与えたい。
3. 今後も、リアルでの出席を原則とし、出席できない特別な事情を事前に申し出た会員に対してのみ特例としてZoom参加を認めることにすることにより、リアルでの参加者の減少を防ぐことができる。 以上